鶴舞中央図書館企画展示

本町通をさんぽする

第三弾

4月18日（土）～5月14日（木）

芝居小屋・見世物屋

大須観音

東本願寺

場所　鶴舞中央図書館２階

期間　2015年2月21日（土）

～2015年5月14日（木）

芝居小屋・見世物屋

本町通と交差する広小路から南の南寺町一帯は、名古屋城下で寺社が集まった地域でした。もともと芝居や見世物などは寺社に奉納する芸能と密接な関係があったため、それらは寺社境内で行われることが多かったようです。若宮八幡宮、清寿院、大須観音、七寺などで数多く興行が行われました。『享元絵巻』には、それらで賑わう様子が描かれています。

＊展示資料＊

『尾陽芝居事始』伊勢屋忠兵衛/著　高力種信／画

名古屋の芝居興業の歴史について、永禄４（1561）年から元文３（1738）年までが記録されています。本町通付近の大須観音や七寺、若宮八幡宮などで多く行われていたことがわかります。

『名古屋勾欄続々誌』小寺玉晁／著

著者は、大変筆まめな人物で知られています。その著作の量は見当もつかず、発見されているものだけでも、300を超えています。芝居好きとしても有名で著作の中でも多くを占めています。この資料には、寛政４（1792）年から文化14（1817）年までの芝居番付が記録されています。

『小治田之真清水』

岡田啓／著　小田切春江／画　東海地方史学協会　1980年復刻

浮世絵師の葛飾北斎は『北斎漫画』出版のため、永楽屋東四郎書店に招かれ、文化14（1817）年の一年ほどは名古屋に滞在していました。その間の10月5日、西本願寺で120畳敷の紙に藁を束ねた特大の筆で、大達磨を描くというパフォーマンスを行ないました。その光景が描かれています。

『海獺談話』小田切春江／著

著者は、『尾張名所図会』の画で知られれる人物です。天保４（1833）年７月３日、熱田沖の干拓地で海面を仕切った新田に一匹のアザラシが迷いこみました。捕獲されたアザラシは清寿院で見世物として、多くの見物人を集め、一大ブームを巻き起こしました。その顛末を記録した資料です。

『感興漫筆』細野忠陳／著

明倫堂の督学を務めた著者が、興味を感じたことを書き綴った日記のような資料です。文久２（1862）年に若宮八幡宮でトラの見世物が興行されたと書かれています。

■参考文献
『近世名古屋享元絵巻の世界』林董一／編　清文堂出版　2007年
『盛り場－祭り・見世物・大道芸－』
名古屋市博物館／編集　名古屋市博物館　2002年
『特別展大にぎわい城下町名古屋』
名古屋市博物館／編集　特別展「大にぎわい城下町名古屋」実行委員会　2007年
『稀書珍籍　忘れじの尾張本』市橋鐸／著　愛知県郷土資料刊行会　1983年

大須観音

正式名は北野山宝生院真福寺です。尾張国中島郡に中島観音を建てたのが始まりで、慶長 17（1612）年に現在の地に移りました。明治 25（1892）年の火災により、本堂・五重塔などを焼失しました。五重塔以外は再建されましたが、昭和 20（1945）年、戦災により再び焼失。戦後再建され現在に至ります。境内にある大須文庫には国宝の『古事記』等を所蔵しています。その経蔵は醍醐寺、根来寺とともに三経蔵と称され、仁和寺、根来寺と並んで本朝三文庫とも言われています。

＊展示資料＊

『大須開帳参詣案内記』　高力種信／画

文化 10（1812）年、50 年ぶりに行われた大須観音の開帳を記録した図録です。境内に屋台などが出て、賑わっている様子が描かれています。

『宝生院図書目録』

文政年間に尾張藩寺社奉行による文庫の蔵書整理に伴い編纂された経蔵図書目録です。

大須観音と五重塔［写真］　名古屋市史資料写真集より

明治 25（1892）年の火災により焼失する前の本堂と五重塔。このあと五重塔は再建されていません。

『大須開帳参詣案内記』

■参考文献
『大須観音真福寺略史』真福寺／編　浜島書店　1954 年
『大須観音　いま開かれる、奇跡の文庫』
阿部泰郎／監修　大須観音宝生院　2012 年
「翻刻・『大須開帳参詣案内記』」（『東洋大学大学院紀要』第２３集）
久野俊彦／［著］
『愛知百科事典』中日新聞社／編　　中日新聞本社　1976 年

東本願寺

正式名は真宗大谷派名古屋別院です。東別院、ご坊さん、お東さんとも呼ばれています。元禄３（1690）年、尾張藩主・光友から、東本願寺第 16 代・一如上人に古渡城跡の一部の土地が寄進されることが決まりました。元禄５（1692）年、仮御堂と梵鐘が完成。（梵鐘は、平成 16（2004）年に名古屋市指定文化財に指定されました。）本堂が完成したのは、建立許可が下りてから 12 年後、元禄 15（1702）年のことでした。明治７（1874）年には、名古屋博覧会が開催されました。

＊展示資料＊

『名陽東御坊繁昌図会』　高力種信／画

東本願寺が建立される前の古渡の地のことや、本堂の建立に関することなど様々な記録が挿絵入りで細かく書かれています。

『博覧会物品録』

明治７（1874）年５月１日から６月 10 日まで開催された名古屋博覧会の物品目録です。名古屋城の金鯱のうち一尾が出品され、評判になりました。

『名陽東御坊繁昌図会』

■参考文献
『愛知百科事典』中日新聞社／編　　中日新聞本社　1976 年
『名古屋別院史』真宗大谷派名古屋別院　1990 年
お東ネット　http://www.ohigashi.net/